



国際ワークショップ報告

沿岸地域社会と災害：アジアからの視点 (Coastal communities and Disaster: Perspectives from Asia)

日時 2018年9月17-18日

場所 コペンハーゲン大学コペンハーゲン災害研究センター

主催：東北大学東北アジア研究センター、コペンハーゲン大学コペンハーゲン災害研究センター (COPE)

災害人文学領域のなかの人類学グループは現在、津波被害地の農業漁業復興における在来知と減災に関わる科研費研究を行っている。この研究集会では、その中間成果を報告するとともに、コペンハーゲン大学との今後の研究交流の可能性を探ることを目的とし実施された。

9月17日は同大学の教員・研究者9名が参加した。そのなかで東北大学で実施している沿岸部地域社会の災害の実態と住民の文化的レジリアンスについて報告し、これに対し、コペンハーゲン大学の教員がコメントをおこなうという形で実施された。同大学の教員の関心は津波被害の実態に加えて、福島原発事故による放射能被害についての実態とそれにたいする住民の対応であった。また夕食を挟んで、コペンハーゲン側の受け入れ教員と今後の学術交流・共同研究の方向性について意見交換を行った。9月18日は同大学の大学院生14名+2名の教員が参加した。この日は前日に東北大で報告した内容を要約する形で院生に提示し質疑をうけた。その後、今後の同大学との交流について討論が行われた。

その結果、今後双方で研究集会をすること、双方の研究交流ネットワークを共有することで合意した。2019年6月10-12日にはコペンハーゲン災害研究センターが共同主催予定のスウェーデン・ウプサラ市での会議「NEEDS 2019: The Fourth Northern European Conference on Emergency and Disaster Studies」および仙台で東北大災害研が共同主催するWorld Bosai Forum等の研究集会で、共通の分科会などを開催し参加することを今後検討していくことで合意した。

